

イデックスオイルレポート ~For a month~

2021年4月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

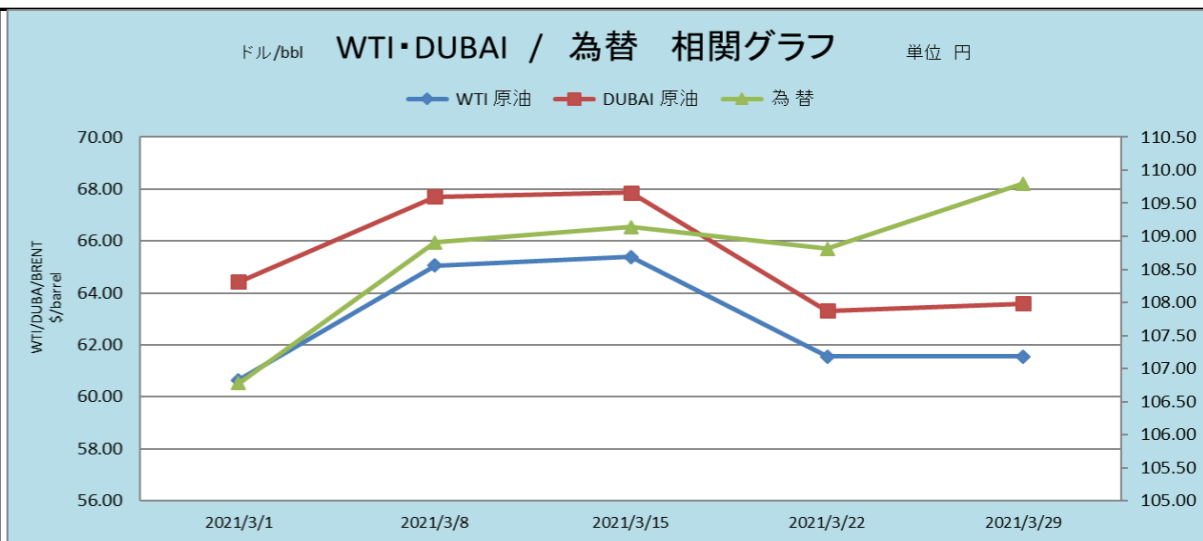
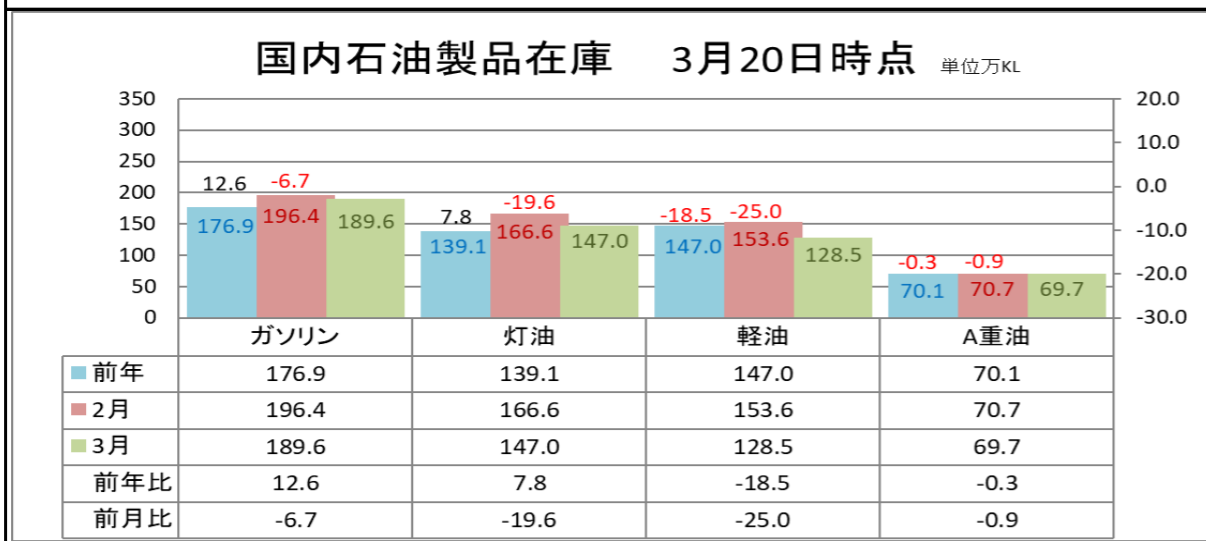
●第1週、週末3/5のWTI原油は、先週比2.56ドル高の66.09ドルとなりました。石油輸出機構(OPEC)加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」は4日の閣僚級会合で、4月の生産について現行の協調減産規模を維持する方針を決定しました。OPEC盟主サウジアラビアのアブドラジズ・エネルギー相は同日の会合後、日量約100万バレルの自主減産を4月まで延長すると表明しました。供給面での支援材料に加え、5日発表された米雇用統計で非農業部門の就業者数、失業率が市場予想を上回る改善を示したことも景気回復期待を支え原油買いを後押ししました。

●第2週、週末3/12のWTI原油は、先週比0.48ドル安の65.61ドルとなりました。「OPECプラス」の協調減産規模維持やサウジアラビアの石油施設が攻撃の標的になったとの報道で7日夜には一時67.98ドルと2018年10月以来の高値を付けました。米エネルギー情報局(EIA)が10日午前中に発表した5日までの1週間の原油在庫は、前週比1380万バレル増と市場予想の80万バレル増を大幅に上回る積み増しとなりました。2月に南部テキサス州を襲った寒波による製油所稼働停止などの影響が残りました。一方で原油生産は、日量1090万バレルと寒波前の水準近くに回復し供給過剰懸念が再燃し原油は、一時63ドル台前半まで売られました。経済協力開発機構(OECD)は9日、今年の世界経済の成長率が5.6%になるとの見通しを示し、昨年12月予想の4.2%から上方修正しました。米国の21年度成長率は、6.5%と前回から3.3%引き上げました。バイデン大統領は、11日新型コロナウイルス危機に対応する1兆9000億ドル規模の追加経済対策に署名し法が成立しました。米景気の回復を加速させるとの期待が高まり原油が、買われました。

●第3週、週末3/19のWTI原油は、先週比4.19ドル安の61.42ドルとなりました。ドイツ、フランス、イタリアなどは、15日、英製薬大手アストラゼネカが開発した新型コロナワクチンの接種を停止すると発表しました。接種後に血栓ができる事例が複数確認されたことが理由です。ワクチン接種拡大のペースが鈍れば経済の正常化が遅れ、エネルギー需要が下振れすると警戒感から利益確定売りが先行しました。また外国為替相場では、対ユーロでドルが上昇したためドル建てで取引される原油などの商品に割高感が生じ原油の上値を抑えました。米エネルギー情報局(EIA)週報で、原油在庫が4週連続で増加したほか、石油製品在庫も予想外の積み増しとなりました。また、国際エネルギー機関(IEA)は同日公表の月報で、原油相場が「新たなスーパーサイクル(長期にわたる上伸基調)に入り、供給不足に陥る可能性がある」とする市場の観測を否定しました。これらにドル上昇に伴う割高感が加わって朝方からほぼ一本調子で下落し、終盤には60ドルの節目を割り込んで一時59.63ドルの安値を付けました。欧州医薬品庁(EMA)は18日、血栓発症例をめぐり問題となっていた英アストラゼネカ社の新型コロナワクチンを安全と結論付けました。ただ、感染収束に程遠い中、ワクチン供給混乱で景気回復が遅れ、エネルギー需要見直しにも悪影響が及ぶとの警戒感も根強く、序盤にはマイナス圏で推移する場面もありました。

●第4週、週末3/26のWTI原油は、先週比1.73ドル高の60.97ドルとなりました。英国の変異ウイルスが猛威を振るうドイツの連邦・州政府は23日感染拡大阻止のためのロックダウン(都市封鎖)の期限延長を発表しました。またフランスも20日から4週間の計画でパリ都市圏含む地域の営業や移動の規制を強化しました。またインドやブラジルなどの新興国の感染者増加も深刻な状況となっています。欧州ではワクチン接種も遅れておりエネルギー需要見直しに対する楽観的な見方が後退し57.76ドルまで下落しました。その後エジプトのスエズ運河で23日、愛媛県の会社が所有する大型コンテナ船座礁事故が発生し、影響長期化で供給が逼迫するとの懸念が再燃し60.97ドルへ反発しました。

3月平均	WTI原油	62.36ドル	前月比	3.3ドル	為替 1ドル	109.63円	前月差	3.26円
------	-------	---------	-----	-------	--------	---------	-----	-------



日付	変動幅	変動幅
2/25~3/3	+1.0	+1.0
3/4~3/10	+2.0	+2.0
3/11~3/17	+1.0	+1.0
3/18~3/24	+2.5	+2.5
3/25~3/31	-2.0	-1.5

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2020年10-12月C重油決定価格	40,920	42,920	【40,920(メニュー)+2,000(プレミアム)】
2021年1-3月C重油仮価格	46,980	48,980	【46,980(メニュー)+2,000(プレミアム)】	
2021年1-3月C重油決定価格	49,930	51,930	【49,930(メニュー)+2,000(プレミアム)】	
決定価格10-12月比	9,010			

内航燃料油価格推移	【単位:円/KL】	
	適合油価格	A重油
2020年10-12月(決定価格)	48,000	51,700
2021年1-3月(仮価格)	53,500	
2021年1-3月(決定価格)	55,400	59,700
決定価格10-12月比	7,400	8,000

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	21/2	9桁速報	36,644	55.80	104.41	4,019
	21/3	最終予測	42,162	62.61	107.50	5,518
	21/4	展望	44,806	67.64	105.00	2,644
	21/5	展望	45,498	66.78	104.50	692

【3月市況】

●第2週の元売価格変動幅は、「+2.0円」の値上げでした。原油コスト「+1.5円」に原油調整金「+0.5円」だったようです。この時点では原油も連日下落基調でしたので、月間玉の消化売りが始まっていました。ただ、改定日翌日にはOPECは減産幅の維持を検討しているとの報道を受け、原油が反転しましたので、金曜分までの見積りを出していたディーラーは引くに引けない状況となっていました。

●第3週の元売価格変動幅は、「+1.0円」の値上げでした。次回の大幅値上げも見えていたために、月間リンクの玉や在庫玉は一旦様子見しており、改定幅分市況も上昇しました。現在週決め玉が市況を形成しておりますが、来週からは月間リンクの玉の販売が強まる可能性が高く、早めの消化売りをしている状況です。

●第4週の元売価格変動幅は、「+2.5円」の値上げでした。仕切り改定のズレを利用した販売が残り、安値は月間リンク玉とコスモ玉の二種類となり、週決め玉は一時様子見となりました。金曜日分からはコスモ玉の安値も消えましたが、月間リンク玉は引き続き売りを強め、市況を形成しました。

●第5週の元売価格変動幅は、ENEOS・コスモ「-1.5円」、出光シェル「-2.0円」の値下げでした。改定は異なりましたが、市況はすでに今回の改定の値下げを見越して先週から月間リンク玉を筆頭に下がってきていました。改定後月間リンクの玉や週決め玉もこれ以上の値下げには困難を極めるために市況は膠着状態です。

【4月価格変動要因】

●需要面:ドイツでは、4/18までロックダウン期限延長を決定しフランスもパリを含む首都圏での移動規制を強化しており、欧州ではワクチン接種ペースも鈍化する中、エネルギー需要回復への楽観的な見通しが後退し、需要面はやや弱いです。

●供給面:ロシアが季節的な需要拡大に合わせて自国の小幅増産は求めるものの4/10OPECプラス会合では現行の生産水準が概ね維持される可能性が高いとみられており供給は、絞られる見込みです。

●リスク資産(金融市場):リスク資産全般ではリスクオントレンドが一服したこともあり、一方向での上昇が続くとは限らなくなりました。長期金利上昇に伴うドル高は重しとなっておりドルが上昇していけばドル建てで取引される商品に割高感が生じ原油売りの要因となります。

●地政学:イエメンシー派の武装勢力がサウジアラビアの石油施設を攻撃したと発表しています。またイランと中国が25年間に渡る包括協定を締結したと発表されました。現在イランは米国による制裁の影響で原油の輸出量を大きく制限されていますが、中国向けの原油輸出を増加させることで影響を回避する可能性があります。本協定は、緊迫する米中関係を一層悪化させると見られています。

価格見通し	(単位:US/bbl)	
	Brent	WTI
High	75	69
Average	65	60
Low	60	55

日付	国	4月経済指標カレンダー	日付	国	4月経済指標カレンダー
1	米	3月ISM製造業景況指数	22	欧	欧州中央銀行(ECB)政策金利
2	米	3月非農業部門雇業者数変化	22	欧	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見
2	米	3月失業率	28	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)終了後政策金利発表
2	米	3月平均時給	28	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長定例記者会見
5	米	3月ISM非製造業景況指数	29	米	1-3月期 四半期実質国内総生産(GDP、速報値)
7	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨	30	欧	4月消費者物価指数(HICP、速報値)
13	米	3月消費者物価指数(CPI)	30	欧	1-3月期 四半期域内総生産(GDP、速報値)
15	米	3月小売売上高	30	米	1-3月期 四半期雇用コスト指数
16	欧	3月消費者物価指数(HICP、改定値)	30	米	3月個人消費支出(PCEデフレーター)

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。